

今日のトピック 世界の「投信マネー」

流入超過額がやや減少する中、アジア株式へ流入

株式ファンド、債券ファンド共に流入超過額が減少

- EPFRグローバル(注1)で世界の「投信マネー」の17年11月の資金フロー動向を見ると、株式ファンドは236億ドルと前月(392億ドル)比でやや減少しました。債券ファンドも184億ドルと前月(同345億ドル)より流入超過額が減少しました。

株式は「アジア」、「新興国アジア」が流入超へ転換

- 株式ファンドは、先進国全般に投資する「グローバル」が92億ドル(前月210億ドル)、「北米」が21億ドル(同122億ドル)とそれぞれ流入超過額が減少しました。一方、日本を含む「アジア(注3)」が60億ドルの流入超に転じました。
- 新興国全般に投資する「GEM(注4)」の流入超過額も12億ドルと前月(51億ドル)より縮小しました。しかし、「新興国アジア(EMアジア)(注5)」は28億ドルの流入超に転じました。「中国」が流入超に転じたことが背景です。「インド」は4億ドルの流入超と2カ月連続の流入超となりました。

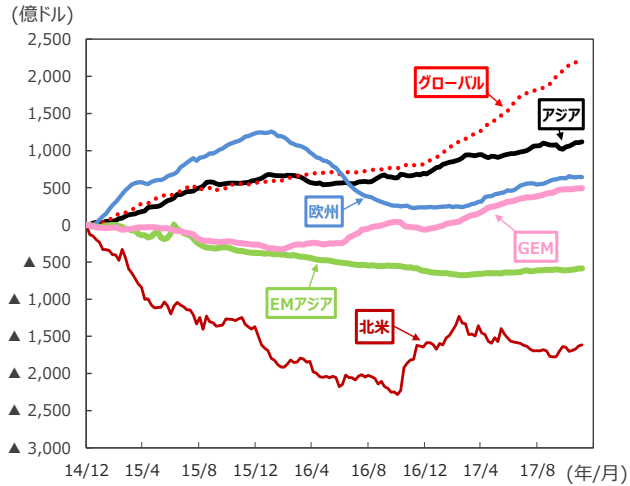
債券も流入超過額が縮小。インドへの流入は継続

- 債券ファンドも流入超過額が縮小しました。「北米」は71億ドルと、前月(235億ドル)より大きく減少しました。
- 新興国への流入超過額も25億ドルと前月(50億ドル)より縮小しました。「EMアジア」は7億ドルの流出超に転じました。ただ、「EMアジア」の中でも「インド」には安定して資金が流入しています。今月も3億ドル(前月4億ドル)の流入超となりました。これで10カ月連続の流入超です。

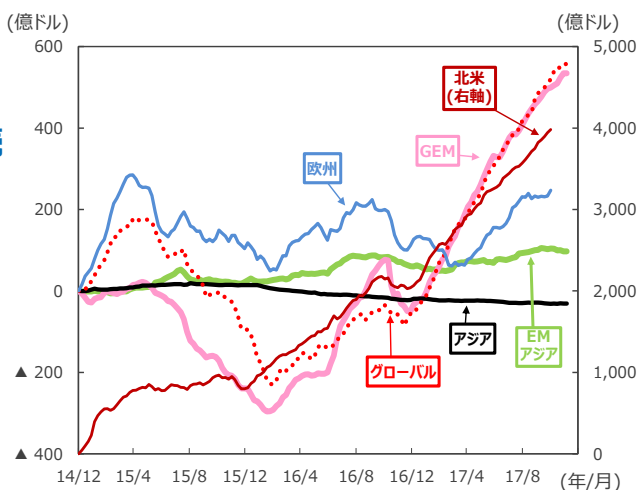
アジア株式への流入が継続するかに注目

- 11月は、これまでの「北米」債券、「グローバル」株式への流れがやや細るなど変化が見られました。こうした中、株式ファンドで「アジア」、「EMアジア」が流入超に転じました。インドは株式、債券とも流入超です。今後も世界経済はアジアの高成長がけん引役となる見通しの中、アジア株式市場への流入が続くか注目されます。

【主要地域別株式ファンドの資金フロー】



【主要地域別債券ファンドの資金フロー】



(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2017年10月末現在31.1兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。
 (注2) データは2014年12月～2017年11月。週次ベース。2014年12月からの累計。
 (注3) 「アジア」は豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール、日本。
 (注4) 「GEM」はGlobal Emerging Markets (世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称)。
 (注5) 「新興国アジア (EMアジア)」は中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュ。
 (出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年12月7日 **インドの金融政策 (2017年12月)**
 2017年12月1日 **インドのGDP成長率 (2017年7-9月期)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。